

青少年育成 かすみがうら市民会議

広報誌

vol.8

～かすみがうら子ども大学 オープンキャンパス
第6回子ども未来フェスティバルを開催～



くすりの科学



スマボレンジャー科学ショー



クッキー作り+バター作り



移動プラネタリウム

かすみがうら子ども大学オープンキャンパスとは……子ども大学生でない児童も参加できる特別授業です。

● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃から青少年育成かすみがうら市民会議にご理解ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

現在、インターネットを介した事件やトラブル、いじめや児童虐待、さらには貧困など青少年を取り巻く環境は、大きく変化しつつあります。

本会は、市民の皆様方と関係各種団体のご協力をいただきながら、最大の目的である「次世代を担う青少年の健全育成」を十分に達成するために様々な活動を展開しております。

市民総ぐるみで青少年健全育成に取り組むため、皆様方からご協力いただきました会費及び協力は、毎年7月に開催されている青少年育成を考えるつどいを始め、青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）、ウィークエンド・コミュニティ・スクールなどの主催事業、青少年相談員連絡協議会、市子ども会育成連合会、市高校生会、市立中学校立志行事などへの補助金交付、また広報事業などへ大切に活用させていただいております。

今後とも、市民の皆様方には「地域の親」として子どもたちを暖かく見守っていただき、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



回 青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。

その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であると言えます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

回 市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体への支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

回 市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校、関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

回 今年度の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

青少年健全育成に関する広報活動

新成人への記念品配付

親子つり大会、リーダー研修会（スキー合宿）など市子連事業への協賛

青少年相談員連絡協議会の巡回・啓発活動への助成

中学校立志行事への助成

高校生会への助成

回 会費について

会費の納入は、毎年6月頃に区長・自治会長・常会長・班長をとお願いしており、一般の方には年額200円、賛助会員の方には年額1口以上（1口1,000円）を納入いただいております。

..... ～推進している運動をご紹介します～

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、今年度から大人のマナーアップ運動としても実施しています。



会員加入にご協力をお願いします。

青少年育成を 考えるつどい

令和元年7月13日（土） あじさい
館視聴覚室で、青少年健全育成に対
する理解と関心を深めることを目的
とした『青少年育成を考えるつどい』
を市PTA連絡協議会との共催で実
施しました。

第一部 少年の主張大会

第一部の「少年の主張大会」では、市内各
中学校の代表者6名が、日頃の生活の中で感
じたことや考えていることを発表しました。
本年度は司会進行を各校の卒業生である高校
生会員らが努めました。

それぞれの主張文をご紹介します。

犯罪の悲しさ



千代田中学校 3年
石塚 陽子

中学校生活を送っていると、部活で
帰りが遅くなり、帰ってから勉強で
自由な時間が少なくなりました。しか
し、自由な時間が少ないせいか最近
はテレビの番組でバラエティよりニ
ュースをよく見るようになりました。テ
レビのニュースは以前はよく聞き流し
ていましたがよく聞いていると、嬉し
くもなったり楽しくなったりするよう
な情

報は少なく、逆に事件、事故、殺人や
最近では薬物の乱用などの良い気持ちに
はならないようなニュースが増えてい
るのを感じました。特に最近では殺人
事件や薬物に関するニュースを以前よ
り圧倒的によく耳にするようになりました。
それらは、ナイフを二本手に持った人があ
らわれ、通行人やバス停でバスを待つ
ていた児童を無差別に刺したという
ニュースです。それによって通行人の
一人と児童一人が亡くなったと報道
されました。私がそのニュースを知っ
たのは学校から帰ってきてすぐ後のこ
とでした。そのニュースはテレビで
大々的に報道されていました。私は最
初そのニュースを見てすごく驚きまし
た。ナイフを持った人があらわれたと
いうのも驚きましたが、一番驚いた
のは、その刺されてしまった被害者
のほとんどが小学生だったことです。
ニュースを聞いていくにつれて恐怖を
感じました。しかし、実際被害にあっ
た小学生の人はほとんど私には想像で
きないくらいの恐怖を感じていたと思
います。私よりも年下の小学生が無差
別に襲われたという事実には私は胸が痛
みしました。私がテレビでこのような小
学生が無差別に襲われたというニュ
ースを聞いたのは初めてだと思っています。
以前も似たような事件があったのは聞
いたことがあります。その話を聞いた
時はまだ私が小学生の中学年くらい
のときで先生が昔実際に起こった出来
事を話してくれました。それは、小学
校にナイフを持った人が侵入してき

て、先生や児童を無差別に殺害したと
いう話でした。その話を聞いたときは
すごく怖いなあと感じるだけでした
が、今回の事件は、テレビで実際にそ
の現場を見たことで現実味があり、犯
人に強い恐怖と怒りを感じました。な
ぜ犯人は小学生を無差別に襲ったので
しょうか。このような悲惨な事件が起
こる前に止めることはできなかったの
でしょうか。日常の生活時にはこのよ
うなことが起こるとは考えられませ
ん。それと同じように被害にあった人
たちもいつも通りに学校に通ってあた
り前のように家に帰ることができると
考えていたはずなんです。しかし、そのよ
うな考えは打ち砕かれ、たった一人の
手によって理不尽にもたくさんの小学
生が襲われました。きっとその時の死
の恐怖は心の傷となり長い間癒えるこ
とはないでしょう。私はもう二度とこ
のような残酷な事件は起きてほしくな
いと思いました。私の住んでいるところ
は事件が起きたところからは離れた
場所ですが、田んぼに囲まれた、間違っ
ても都会とは言えない場所です。私は
あのニュースを見るまで自分の住んで
いる場所には不審者なんて出ることは
ないだろうと考えていました。しかし、
絶対というものはありません。いつ誰
が事件に巻き込まれるかなんてわか
らないのです。ニュースとして聞くだけ
では時が経つにつれて事件の記憶は暖
昧になってきます。しかしそのとき感
じた怖いという強い感情を忘れないよ
うにすること、自分は大丈夫などと
他人に思ってしまうないようにする
ことが大切だと思います。

「違い」を認める



下稲吉中学校 3年
岡島 桐子

中学校で迎える、三回目の四月。新
しい教室に足を踏み入れはしました
が、仲のいい友人とはクラスが離れて
しまい、淋しい思いをしました。これ
まで関わったことのない同級生が多
く、不安も感じました。なぜクラス替
えがあるのでしょうか。先生たちは、
友達だけでなく、多くの人との交流が
大切だとよくお話しになります。

では、なぜ私たちは、他者と交流し
なければいけないのでしょうか。さま
ざまな人とのふれ合いで、得られるも
のは何なのでしょう。知らない人よ
りも、自分と仲のいい人と関わって
いた方が楽し、ずっと楽しいです。わ
ざわざ他人と関わって、嫌な思いをす
る必要はあるのでしょうか。そんなと
き思い出すのは、中学一年生の頃の
出来事です。

当時の担任の先生の提案で、クラス
の人のいいところを見つけて、帰りの
会で発表することになりました。この
活動を通して、私たちはお互いをよく
観察するようになり、すぐに困ってい
る人を手助けする人が増えるようにな
りました。

しかし、クラスの仲間は一日中、一緒に過ごします。お互いを観察し合ううち、いいところばかりではなく、時には悪いところも見えてくるようになります。例えばクラスでの話し合いのとき、「どうしてあの人は勝手に決めてしまうのだろう。」と、私自身、クラスの仲間に不満を感じることがありました。ですが、そう考えてはとしたのです。「そういう自分は積極的に話し合いに参加しているだろうか。」他の人の悪いところが見えてきたときに、自分の悪いところも見えてきたのです。

他の人のいいところを見つけること。これは小学校のころから言われ続けたことです。いいところを見つけることで、他の人との「違い」を認められるようになる。しかし本当にそうでしょうか。いいところだけを認めることが、「違い」を認めることなのでしょうか。

クラスの話し合いに消極的な、自分の悪いところ。自分勝手に決めてしまふ他の人の悪いところ。みんなが持つ悪いところも、みんなが持つ「違い」なのだと気付きました。

しかし、自分の悪いところには目を背けたくなるし、他人の悪いところを「違い」として認めることには勇気がいると思います。私たちのおよそ三十人のクラスの中ではなおさらです。その三十人のひとりひとりに考え方や価値観の「違い」、いいところや悪いところという「違い」がある。三十人分の「違い」を受けとめ、認めることは難しいことです。だからこそ、クラス

の中でけんかやいじめなどの衝突が起こるのです。

「違い」とは、自分自身とは何であるか、ということだと思えます。そして、自分自身の「違い」とは、集団の中や他の人との関わりの中でしか見えてこないものなのです。「違い」は、他者のものであっても、誰のものであっても、大切にしなければならぬ。私が見つけた、自分と他の人との「違い」。それは、他の人がいたからこそ見つけれられたのです。

自分の持つ「違い」が、他者の持つ「違い」と衝突することや、それを恐れる気持ちから、集団から孤立してしまうこともあるでしょう。しかし、たくさん、いろいろな「違い」があることを理解して、その「違い」をお互いに認められれば、どんな衝突があったとしても、結束のある集団になれると思うのです。

自分とは違う他の人。自分たちとは違う他の集団。さまざまな人と、その「違い」にふれ合い、その「違い」を認めることで、私たち自身の「違い」が輝くのではないのでしょうか。

知らない人との交流の中で、その人々と私の「違い」を新しく見つけながら、このクラスにしかない「違い」を楽しむ、これからの日々を過ごしていきたいです。



『食べ残し』



霞ヶ浦中学校 3年
古渡 春樹

生物が生きていくうえで欠かせないこと、それは栄養補給、つまりは食事です。皆さんも一日三食しっかり食べていることでしょう。しかし、その食事を残さず、きれいに食べていますか。私が今回主張したいのは、この「食べ残し」についてです。

私が、この主張をしたと思ったのは、最近、給食の食べ残しが多くなってきたと感じたからです。食べ残しの理由として、よく耳にするのは次の三つです。「嫌いな食べ物が入っている」「食べられる時間が短い」「一人あたりの量が多い。」

これらの問題を解決するにはどうすればいいのか、考えてみました。が、はっきり言って私はどれも解決できない問題だと思っています。

まず一つ目の問題です。「体にいいのだから、我慢して食べなさい。」と言いたいところですが、本来、幸せであるはずの食事の時間を苦痛な時間に変えてしまうというのはどうなのでしょう。

次に二つ目の問題です。学校の給食の時間を例にして考えてみましょう。

準備の時間を早めればいいとも言えますが、それでも食べられない人はできます。かと言って、当人が食べ終わるまで食べさせればいいというのもどうなのでしょう。食べるペースには個人差があります。それを無視して、当人の時間を奪い、無理をして食べさせると当人はかなりの苦痛を感じていると思います。

そして三つ目の問題です。単純に食べられる量まで減らせばいいと思ってしまいましたが、その減らされた量は誰かが食べない限り、そのまま、廃棄されてしまうのです。

これらのように考えると本当に解決できない問題のように思えてきます。しかし、私が本当に言いたいのは次のことです。

「私たちは命をいただいている。」

植物もそうだし、動物もそう、何かが生きていくためには必ず何かの犠牲を伴うのです。特に肉用の牛、豚、鳥はかわいそうです。彼らは、人に食べられるために育てられているのだから、想像してみてください。もしも逆の立場だったら。狭い場所に閉じこめられ、自由も効かず、解放されるのは、死のみという一生だったら。彼らの苦痛や絶望に比べれば、食事の間に感じる苦痛など、ささいなものでしょう。これはあくまでも極論です。さすがにここまでいうと、逆に食べることにいけなくなってしまうです。ですが、それでも私は、食事へのありがたみが薄れてきていると思います。日本の一年間の食べ残しは二百八十九万トンで一人当たりでは、百七十一キロにも

なると言われています。日本は世界で一番、食べ残している国なのです。世界には、飢えによって苦しんでいる人たちがいます。もし、この食べ残した量と同等の食事を彼らに与えることができたなら、どれだけ多くの命を救えるか、考えてみて下さい。私たちが三食きちんと食べられている裏では、このように食べられない人たちがもいるのです。それを知ってもまだ、皆さんは食べ残しますか。絶対に残すなどはいませんが、食事のありがたみを、命の尊さをよく感じて食べてください。そうすれば食べ残しは減っていくと思います。

家族への気持ち



千代田中学校 3年
市川 さくら

私の家は三人家族です。母と兄と私の三人で毎日過ごしています。

私の家族はみんな、バレーボールをやっています。私は先日、部活動を引退しましたが、クラブチームでバレーボールをしています。

兄は、小学校と高校でバレーボールをやっています。中学校では、男子バレーボール部がなかったため、ハンドボールをやっていました。周りの人た

ちはみんな、高校に行ってもハンドボールを続けた方がいんじゃないかと言っていました。兄は、自分の大好きなバレーボールを選びました。

母は、バレーボールの先生をやっています。スポーツ少年団のコーチをしていて、私も小学生の時に教えてもらいました。昔は、中学校でも教えていたそうです。

そんな私の家族が会話をする場所は、だいたい車です。私の想像ですが、普通は、家なんだろうと思います。だから、車での会話が増えて、家での会話が減った時は、少しだけ寂しかったのを覚えています。でも、よく考えたら、家族三人が家に揃うのは、一日にだいたい一、二時間程度です。朝は、自分たちの準備で忙しくて、家族の会話は「おはよう」と「行ってきます」くらいです。夜はたいいてい、帰ってくるのが十時近くになってしまい、帰るとすぐに眠ってしまいます。

そんな中で、我が家が家族の会話をする場所は、やはり車だと思っています。

私は、学校が終わったら、家に帰り、勉強と自主トレをします。それが終わったら、着替えて、母の帰りを待ちます。母が帰ってきたら、阿見町の体育館に向かい、八時三十分過ぎまでクラブチームで練習をします。兄も、自分の部活動が終わってから、急いでクラブチームの練習に来てくれます。そして、練習のお手伝いをしてくれます。本人に直接は言えませんが、私は兄にとっても感謝しています。

ですが、兄以上に感謝しているのは、母です。小学生の頃から、私の大会や

練習試合などで遠い所に行く時も、母は必ず送り迎えをしてくれました。そして、バレーボールのことになると、私にとっても厳しくなり、一生懸命に教えてくれました。当時は、なぜ私だけに厳しくするのか、と不思議に思っていました。今では母の思いが分かり、心から感謝しています。

母は、私と兄のせいで、自分の好きなことをやる時間があまりありません。休日も、私と兄の送迎や、母が教えているスポーツ少年団の練習や大会などで一日がすぐに終わり、土曜、日曜とあっという間に過ぎてしまいます。母は小学校の教師をしているので、平日も休む日は一日もありません。

私は、そんな母が心配です。ほぼ毎日、片道四十分以上かかる道のりを車で走っていて、夜寝るのは遅いのに、朝は起きるのがとても早くて。私のクラブチームが終わるまで、こんな毎日が続いて、母は本当に大丈夫なのか、怖いのです。

しかし、心配しているだけでは何も変わらないと思います。そこで、母にできる恩返しを考えてみました。

それは、クラブチームの大会「ヤングバレー」で優勝して、全国大会に行くことです。今はそのために、必死に練習しています。

私は、カメみたいにみんなよりできることが少なく、できるようにするまでに時間がかかります。ですが、母はいつも、

「カメさんでも大丈夫。さくらは、カメさんだけど、大丈夫。心配はいらないよ。」

と言ってくれます。母は、いつでも私のために行動してくれます。そんな母の笑顔が私は見たいです。そのためにも、大会で優勝できるように頑張りたいです。

今後、自分を大切にするのも大事ですが、私をここまで育ててくれた家族に感謝し、家族と、周りのみんなも大事にしていきたいです。

『普通』



下稲吉中学校 3年
平尾 美貴

「あいつ、普通じゃないよね。」

せせら笑う同級生の声が、やけに大きく聞こえました。怒りよりも悔しさが込み上げてきて、何度も心の中で問いかけました。

「普通って、なんなんだろう?」

同級生というよりも、先生方というほうが楽しい。それは、私が小学生の頃から感じていたことでした。同級生とテレビの話をするよりも、先生方の体験談のほうが面白い。格好良いと噂の先輩より、先生方のほうがさらに重なる。私は先生方を慕うようになって、かけがえのない時間だったの

です。

中学校に入学した私は、休み時間は必ず先生方とお話をしました。気がつけば、同級生と過ごす休み時間より、先生方と過ごす休み時間のほうが多くなっていました。

中学二年生のある日、私にとって忘れられない出来事が起きました。いつものように先生と話していると、同級生がちらちらとこちらを見ていることに気づきました。得体のしれないものを見るような、意地の悪い冷たい眼差し。彼女たちは、私を鼻で笑い、声を潜めて、「あいつ、普通じゃないよね。」と言ったのです。足が震えました。心臓が痛くなるほどくばくと音を立てました。私はなるべく彼女たちと目を合わせないように、先生に気づかれないうように、笑いながら話し続けました。気づかないふりをしたのです。

「普通じゃない?」どうして人よりちょっと多く先生方と話しているだけで、「普通じゃない」と言われるのでしょうか。どうして楽しいと思うことをしているだけで、周りから白い目で見られるのでしょうか。どうして私が傷つかなければならないのでしょうか。どうして私は「普通じゃない」のでしょうか。どうして。

そもそも、「普通」ってなんなんだろう?

考えれば考えるほど、わからなくなってきました。皆と違う行動をとると「普通じゃない」と言われてしまう。逆に、他人と違うことを恐れて、何に対しても同調していたら「つまらない」人になってしまうのではないか。

約半年、独りで悩む日々が続きました。そのくらい「普通」という言葉は私にとって重く、むしろ恐怖でした。しかし、先生方との時間が安らぎだった私には、休み時間の過ごし方を変えるという選択肢はありませんでした。

そして、三月も半ば。仲良くなったクラスの仲間や、先生方との別れが近づいてきました。そんなとき、私は、お世話になっていた先生から手紙を貰いました。その手紙には、こんなことが書かれていました。

「自分らしく自分が思う道を進んでください。」

何かがすうつと溶けていくような感覚を味わいました。私は、私らしく生きていいのだとようやく認められた気がして、心が軽くなっていったのです。ずっと呪いのように私を苦しめてきた「普通」という言葉から解放された気がしました。

「普通」ってなんなんだろう?きつと、答えは人によって違います。「平均」と答える人もいれば、「多数派」と答える人もいます。

「普通」とは、諸刃の剣である。それが私の答えです。「普通」という言葉は、人によって定義は違うのに、私たちを安心させたり、逆に苦しめたりもします。ですから、私たちは丁寧に、なるべく前向きに「普通」という言葉を扱うことが大切なのだと思います。「普通」と言われたら「同じように感じる人がそばにいるんだ」と考え、「普通じゃない」と言われたら「皆と違う自分らしさがあるんだ」と考えられるような気持ちを持てばよいので

す。「普通」という言葉で、自分を見失わないように。「普通」という曖昧な言葉で、自分を押し殺すことのないように。そう思えるような、私自身の心の持ち方が大切なのだと気づきました。

今の私は、手紙で貰った先生の言葉を胸に、楽しく学校に通っています。「普通じゃない」と言われても、もう私は後ろ向きな考えを持つことはありません。むしろ、褒め言葉だと思つて、笑顔で頷くことができます。何故なら、「自分らしく生きていく証拠だから。」



人と人とのつながり
現代社会から見る日本の未来



霞ヶ浦中学校 3年
櫻井 咲和子

「SNSトラブル」「AI・人工知能導入」

ここ数年ニュースなどでよく耳にする言葉です。私が今回伝えたいことは人と人とのつながりが私達人間以外のものによってこの先なくなってしまうのではないかと、ということですが、

まず、SNSの未来について考えてみます。今や、相手の顔を見ずに文章だけでやり取りするのが当たり前になってきている世の中。利点としては、連絡がいつでもとれることが一番に挙げられます。また、スタンプや絵文字などがたくさんあって何より楽しいです。でも楽しいからといってやりすぎになってしまうのでしょうか。やはり、文章だけでやりとりするため相手の顔が見えない・気持ちが伝わりづらいこともあり、すれ違いが起こってしまいます。私も顔を見ずに文章だけのやり取りで難しいなと感じたことがあります。ある日、友達に会話の流れで「そんなことないよ。」と絵文字もなく送ってしまいました。当然、友達からは「怒ってる?」という返事がき

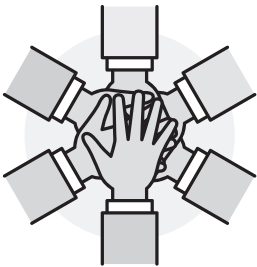
て気まぐしくなっていました。やはり、自分なりに工夫して絵文字等を使い、お互いを気遣いながらやり取りしていくべきだと思います。また、大事なことはきちんと責任を持って、面と向かって言うべきだと思います。そして、それがマナーでもあるのかなとも感じました。SNSとの関わり方を見直していくことで、人と人とのつながりをなくさずに済むのではないのでしょうか。

次は、AI・人工知能についてです。日本の今ある仕事の八割程度がAIや人工知能の導入で将来的になくなる可能性があるということを知っていますか。ですが、このようなことが起こることでもメリットも生じます。それは労働の負担を減らすことができるという点です。今の社会は働き方改革と言って、「NO残業デー」「プレミアムフライデー」など様々な取り組みをしています。でも、私はそのようなことをしても効果は全然見られていないなと感じています。やはり、一番効果があるのはAI・人工知能に頼って仕事をしていく方法だと思います。しかし、いくら頼るとしても将来八割の仕事がなくなるかもしれないと言われたら怖くなってくるのも事実です。社会人になると人と人とのつながりを通して、たくさんの方の成長を学んでいきます。実際まだ中学生の私でも人とのつながりって大切な日々実感しています。もしそれがなくなったらどうなるのでしょうか。人として生きていくのでしょうか。人として自立するために、社会経験をするために、働くこと

いうことは欠かせません。

ですが、先ほど述べたAI・人工知能の発展が進むことに対して中学生の私たちが出来ることは限りなく少ないことも事実です。しかし、その中でも自分たちの将来に関わることなので社会がどのように変化していくのかを常に知らないといけません。SNS上でのやりとりについては今の私たちでも、できることがあると思います。それは先ほど述べたように面と向かって大切なことを伝えるなどです。できることできないことを知ったうえで今できることに全力を尽くすことは私たちのこれからの生活に大きな変化をもたらすのではないのでしょうか。

人と人が支え合い助け合って今の社会は成り立っています。挨拶を交わし元気になる、困っている人がいたら助ける、感謝の言葉と謝罪の言葉が言える。私達が当たり前として行っている行動も全て人とのつながりを通して学んだことなのです。そんな世の中がSNS・AI・人工知能に占領されてしまったら、日本はどうなってしまうのでしょうか。私は、人と人が手を取り合い、優しさ溢れる社会で生きていきたいです。そして、そうあってほしいと思います。



青少年育成を考えるつどい

第一部 講演会

『やってよかったPTA』

講師 日本PTA全国協議会

会長 佐藤 秀行氏



第2部の講演会は、佐藤秀行氏から、「PTA活動」というのはどういうものなのかを、ご自身の体験を交えながらわかりやすく楽しくお話いただき、今後のPTA活動の方法などを学びました。

令和元年度

『少年の主張茨城県大会主張文を募集しました』

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「令和元年度少年の主張文募集」に市内3中学校から、50名の応募があり、学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。

研修会等へ参加しました

○土浦地区青少年育成市民会議連絡会研修集会(かすみがうら市事務局)

令和元年12月7日(土)あじさい館

講演 演 「青少年育成のあり方」高校野球の指導を通して」

県立石岡第一高等学校 生徒指導部長 川井政平氏

事例発表 かすみがうら市生涯学習課社会教育主事 飯村大輔氏



講演 川井氏



事例発表 飯村氏

○青少年健全育成茨城県推進大会

令和2年2月5日(水) アダストリアみとアリーナ

かすみがうら市

青少年相談員

連絡協議会

青少年育成に関する関心と理解を深めるための啓発活動や、環境浄化を推進することを目的とする様々な活動を行っています。

①巡回活動／青色防犯パトロール車にて毎月2回市内の施設や店舗を中心に巡回しています。また、ふれあい生涯学習フェア、かすみがうら祭などの市内で開催されるイベントでも巡回指導を行いました。

②あいさつ・声かけ運動／生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを行います。

③啓発活動／神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかけました。

④視察研修／青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、今年度は11月20日(水)に茨城県にある水府学院を訪問し、施設内の見学に加え、学院での生活、社会復帰への支援等を説明していただきました。また、水府学院は全国に2箇所しかない「薬物非行防止指導重点指導施設」となる少年院であり、薬物指導の話を聞くことができ、今後の活動の参考になることができました。

⑤店舗への訪問活動／コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在33店舗にご協力いただいております。

⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会／令和2年2月15日(土)につくば市にて、相談員の資質の向上及び青少年の健全育成のため、石岡市・つくば市・土浦市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、研修会が実施されました。



第5ブロック研修会



市内3中学校で行われた
あいさつ・声かけ運動



神立駅で行われた非行防止
キャンペーン

青少年心身 健全育成事業

ジュニア和太鼓教室

市内の小学3年生から中学3年生を対象に、かすみがうら市体育センターを会場に開催し17名の参加者が7月の猛暑の時期から練習を開始しました。あゆみ太鼓の方々の指導の下、バチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、6回の教室を経たのちに10月のふれあい生涯学習フェア、11月のかすみがうら祭では課題曲の「熱き風」を堂々とした姿で披露することができました。



ふれあい生涯学習フェアで練習の成果を発表

市子ども会 育成連合会事業

リーダー研修会 (スキー合宿)

令和2年2月8日(土)～9日(日)に、福島県たかつえスキー場で、現地スキーインストラクターによるスキー講習、雪上運動会、安全関連講習会に20名が参加しました。今年度も当事業に青少年育成かすみがうら市民会議から経費の一部を補助し開催されています。

小学校高学年の参加者たちは、サラサラの新雪と戯れたり、慣れないスキーに奮闘しつつ地域のリーダーとして研修を積み絆を育んでいました。



たかつえスキー場でのスキー合宿

高校生会の活動

高校生会は今年度23名となり、ふれあい生涯学習フェアや、青少年育成を考えるつどいでの司会、KWC S事業への協力、あじさい館ホールのクリスマスツリー装飾等様々なイベントに参加し、積極的に活動しました。今後の活躍も期待されます。また、定例会を実施して活動の計画を検討するなど、自主的に活動しています。新年度の入会もお待ちしております。



ふれあい生涯学習フェア出展(大人クラブ)協力

成人式典事業

令和2年1月12日(日)千代田講堂にて、令和2年成人式が行われました。334名の新成人が出席し、懐かしい友との再会に喜び、この日の思い出と未来への希望を胸に、これまでの20年間培った経験とこれから始まる新しい道に向かって歩み始めました。青少年育成かすみがうら市民会議から記念品の協賛を行いました。



牛久栄進高校書道部によるオープニングアクト

KwCS

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティー・スクール事業

市内に住む児童・生徒を対象に、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって事業を実施しています。

今年度は、親子つり大会、アロマグラデーションキャンドル作り、夏休み絵画教室、古墳フェスタ、かすみっ子まつり、リーダー研修会（スキー合宿）、子ども大学オープンキャンパス（子ども未来フェスティバル）等の事業を実施し、延べ717人の参加がありました。



「親子つり大会」
ニジマス釣り



「古墳フェスタ」
女王作り



「アロマグラデーション
キャンドル作り」



「かすみっ子まつり」
スノーボール作り



「夏休み絵画教室」



青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0511 FAX.029-898-2965

発行日：令和2年3月17日